

群馬県立富岡実業高等学校 学校評価一覧表 ① (令和2年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策		第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部不審	改善策	自己評価	外部不審	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 各学科コースの専門教育に生徒の85%以上が満足している。	ア 普通科目と専門科目の座学や実験実習の授業改善を図り、基礎学力、専門的知識や技術・技能を基礎から何度も繰り返し確実に身に付けさせる。また、外部機関との連携に努め、積極的に活用する。1学年で行うコース選択ガイダンス科目「産業社会と人間」を充実させる。	A	A	コース・部門別や選択科目などの授業に生徒の91%が満足している。外部機関等との連携を積極的に実施するなど、授業の形態をさらに工夫する。	A	A	少人数制の授業形態を生徒の87%がその効果を認めており、保護者も94%が専門教科の指導内容に満足している。さらに授業改善を推進する。また、科目「産業社会と人間」において、より興味・関心をもちたいという充実を図る。	
		② 地域貢献活動に積極的に参加し、その活動を評価する生徒が80%以上である。	イ 地域貢献活動として行政や地域の小・中学校、各種団体との連携・交流を行い、活発に情報発信を行う。地域活性化活動等は、普通科・農業科・工業科が協力して推進する。生徒には、興味や達成感をもって取り組めるよう、学年・コースに応じた活動の場を設定する。	A	A	地域交流・連携の大切さを考える生徒は85%、参加した又は予定している生徒は42%で、コロナ禍の影響で昨年より18%減少した。活動を継続するとともに、さらに生徒が参加しやすい交流や形態を工夫する。	A	A	地域交流活動の大切さを考える生徒85%、保護者90%であり、地域交流活動に参加した生徒も42%であった。また、保護者の94%が活動を評価している。今後も、上級生から下級生へ引継ぎをしっかりと行ってきたい。	
		③ 百分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	ウ 基礎・基本を重視し、繰り返し学べる学習指導を充実させる。また、生徒会・農業クラブ・各部活動・研究部活動や生徒が意欲的に参加できる行事等を工夫する。	A	A	富実を選んで良かったと回答した生徒は85%、保護者は96%で、昨年度より増加した。行事に満足している生徒は昨年より6%減少し73%に止まっていることから、さらに各部との連携を図り、生徒が満足できる活動を模索する必要がある。	B	A	富実を選んで良かったと回答した生徒は85%、保護者は94%となっている。しかし、行事に満足している生徒は73%だった。富実を選んで良かったと思えるよう、教育活動の内容をさらに工夫・改善する。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 「授業がわかりやすい」と、生徒の70%以上が答えている。	エ 生徒の特性、学習状況や理解度等を把握したうえで、授業改善に取り組む。学力定着に課題のある生徒への指導を充実させる。	A	A	授業がわかりやすいと回答した生徒は79%で、昨年度より12%増加した。さらに授業改善を重ね、よりわかりやすい授業を工夫する必要がある。	A	A	授業がわかりやすいと回答した生徒は79%、昨年度より11%増加し目標値に達した。また、丁寧に教えてくれると評価している生徒も昨年度より9%増加し83%に達した。研修をとおしてさらに授業改善に努めたい。	
		⑤ 資格取得に向けた指導に、生徒の85%以上が満足している。	オ 生徒・保護者に対して資格取得の意義を伝え、補習等を活用して受験率と合格率を高める。	A	A	生徒の90%が資格取得指導に満足している。工夫・改善を図りながら継続指導を実施する。	B	A	生徒の評価は80%、保護者は90%で目標値を達成している。今後もさらなる資格取得向上を目指して継続する。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 意欲的に学習に取り組んでいると自己評価している生徒が、80%以上である。	カ 授業規律の確立を土台に、主体的・対話的な学びの導入やICTの活用等によって生徒の意欲を引き出す指導を実践する。	A	A	意欲的に学習に取り組んでいると回答した生徒は89%で、昨年度より4%増加した。主体的・対話的な学びの導入やICTの活用を推進する。	A	A	生徒の評価は昨年度より3%増加し、89%である。配布された端末を有効に活用し主体的・対話的な学びを推進する。	
		⑦ 自己の目標に応じた学力を身に付けたと自己評価している生徒が、70%以上である。	キ 朝学習や補習等で基礎学力を向上させる。将来の進路目標に向け基礎基本の習得、資格取得および生きて働く専門性を身に付けさせる。	B	B	目標をもって勉強し学力を身に付けていると回答した生徒は76%である。朝学習や放課後の補習に取り組んでいる生徒が67%と少なく、学習習慣を身に付ける工夫が必要である。	B	B	目標を持って勉強し学力を身に付けていると回答した生徒が76%と目標を達成したが、学年に差がある。来年度より朝学習を始業後に実施し、学習指導の定着を図る。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ 学校は安全であり、安心して学校生活を送っていると感じている生徒が90%以上である。	ク 職員会議や学年会で生徒に関する情報交換を緊密に行い、生徒の状況把握と情報の共有を図り、問題行動やいじめ問題の未然防止に努める。また、職員全体できちんとした指導を行う。	C	C	生徒の評価は昨年度より7%上昇し、84%となった。相談しやすい雰囲気があると答えた生徒も5%増加し72%になった。生徒が相談しやすい環境をより一層整える必要がある。	C	C	生徒の評価は昨年度より11%上昇し、84%となった。生徒が不安に感じている要因をきめ細かに把握し対応する必要がある。	
		⑨ 欠席率が1.2%以下、遅刻率が0.4%以下である。	ケ 卒業後の進路実現を見据え、家庭と連携を取り、基本的生活習慣の確立を図る。	C	C	欠席率は1.0%、遅刻率は0.6%だった。今後は家庭と連絡を取りながらこの状態を改善していきたい。	D	D	長期欠席等により欠席率は1.5%、遅刻率は0.7%となった。職員間の情報共有と併せて家庭や関係機関と連携し、状況改善に努める。	
	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑩ 毎日朝食を摂るなど、健康に留意した生活を送るよう意識している生徒が80%以上である。	コ 規則正しい生活を送るために、保健便りやH.R、授業を通じて睡眠や朝食の大切さを理解し実践するよう意識させる。	A	A	毎日朝食を摂ると答えた生徒が4%上昇し85%、きちんと睡眠をとると答えた生徒が4%上昇し79%だった。規則正しい生活を意識させたい。	B	B	毎日朝食を摂っていると答えた生徒が85%、きちんと睡眠をとると答えた生徒が昨年度より4%増加し79%だった。規則正しい生活を促すよう、保護者にも働きかける。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑪ いじめをしない許さない態度を身に付け、いじめ防止に向け積極的に取り組む生徒が85%以上である。	サ 生徒会が中心となり、いじめ防止の年間計画を立案し、クラスでの話し合い、標語づくり、いじめ防止フォーラムの成果を生かした活動等、生徒主体の活動を充実させる。	C	B	生徒の評価は昨年度より8%上昇し、ほぼ目標値となった。いじめをしない許さない気持ちはもっているため、いじめ防止フォーラム等を契機に生徒主体の取組を充実させたい。	B	B	人の嫌がることをしないよう意識している生徒は95%である。また、生徒主体の「いじめ防止活動」に参加している生徒は昨年度より13%増加し84%だった。生徒会が中心となり「いじめ防止活動」をさらに工夫する。	
		⑫ 進路に関する行事が進路選択に役立っていると評価する生徒が85%以上である。	シ 進路講演会、進路相談会、インターンシップなど、進路への関心を高める行事を開催する。	A	A	進路に関する行事が進路選択に役立っていると評価する生徒が89%である。今後も役立つ行事を継続する。	A	A	進路に関する行事が進路選択に役立っていると評価する生徒が昨年度より5%上昇し、89%と目標を達成した。より生徒に身近でわかりやすい行事を実施する。	
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬ 自己の生き方と将来の職業の関連について考えている生徒が75%以上である。	ス 適性検査や基礎力診断テスト等の結果を効果的に活用するための研修会等を充実させる。	B	B	自己の生き方と将来の職業の関連について考えている生徒が77%である。今後も基礎力診断テスト等の結果を活用するための研修会等を充実させる。	B	B	適性検査や基礎力診断テスト等に対する生徒の評価は87%と高い。生徒の進路実現に向けた職員研修をさらに充実させたい。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭・地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭ 百分の適性について理解し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	セ 適性検査や進路ワークショップ・進路手帳を活用し自己理解を深めさせるとともに体験活動等を工夫し、積極的に進路学習に取り組ませる。	B	B	積極的に取り組んでいると評価した生徒が昨年度同様81%であった。さらに生徒への働きかけを増やし教材の活用を図る。	B	B	積極的に取り組んでいると評価した生徒は昨年度より上昇し81%であった。生徒の自覚を促す取り組みを検討・工夫する。	
		⑮ P.T.A活動や学校行事等に1回以上参加している保護者が、80%以上である。	ソ 保護者が参加しやすい機会の充実を図る。	D	D	コロナ禍のため殆どのP.T.A活動や学校行事等が中止となり、昨年度より46%減少し38%である。PTA役員会でPTA総会の充実に向けた取り組みを確認したい。	D	D	多くの行事が中止となったため、行事に積極的に参加したと答えた保護者は43%と例年より少なくなった。PTA総会等内容の改善を図る。	
		⑯ 授業公開、学校からのメールや配付物、ホームページの閲覧等を通じて、保護者の70%以上が学校の様子を理解できている。	タ 授業公開を年3回実施、ホームページの定期的な更新、学校通信の発行及びGSNメールで学校情報を積極的に発信する。	B	B	学校での生活をだいたい把握している保護者は62%だった。一方、富実の記事やホームページを見たことがある保護者は27%上昇し、84%となった。GSNメールなどを通じた情報発信をさらに充実させたい。	B	B	学校での生活を把握している保護者が69%、新聞やホームページを見たことがある保護者が73%となった。情報発信を伝える保護者宛メールを有効に活用する。	

(目標値の)

A: 十分達成できた 105% B: 達成できた 100% C: もう少しで達成できた 80% D: 達成できなかった 80%以下

80% ⇒ 80%×1.05=84% 80%×1.00=80%  
70% ⇒ 70%×1.05=73.5% 70%×1.00=70%

80%×0.80=64% 80%×0.80=64%  
70%×0.80=56% 70%×0.80=56%

63%~ 63%~  
55%~ 55%~